

大野城市の文化財に出合った！ 子ども考古学教室

8月2日(水)から4日(金)までの3日間、「子ども考古学教室」が行われました。

この教室は、市内にある史跡などの見学や体験活動を通して、考古学や歴史に興味を持ち、郷土愛を育むことを目的として、毎年開いています。

今年は市内の小学生だけでなく、遠くポーランドからも参加がありました。九州歴史資料館で古代の遊び“ぎっちょう”などを体験し、国特別史跡の水城跡と大野城跡の見学をしました。また、乙金東で発見された善一田古墳群では、普段は公開されていない石室内へ入る体験もできました。

子どもたちは、貴重な文化財を見て、触れて、感じたことを、しっかりと活動報告レポートにまとめ、積極的に発表しました。



防災タウンページ(大野城市版)を配布

8月9日(水)、NTTタウンページ株式会社と「災害時における情報伝達等に関する基本協定書」調印式および別冊「防災タウンページ」(大野城市版)贈呈式を行いました。

防災タウンページは、タウンページ電話帳の別冊版として発行される冊子で、市が出す避難情報や市内の避難所マップ、その他非常持ち出し品リストや避難所生活での注意点など、命を守るために必要となる情報がたくさん掲載されています。

防災タウンページ(大野城市版)は8月中に市内の全世帯、全事業所に配布されました。



第26回大野城市中学校吹奏楽部合同演奏会

市内中学校5校の吹奏楽部員が日頃の成果を発表する場である、大野城市中学校吹奏楽部合同演奏会が、8月8日(火)にまどかぴあ大ホールで開かれました。

前半は学校別の部員全員による演奏で、吹奏楽にはめずらしい和太鼓を使ったり、パートごとにステージ前面に移動して演奏するパフォーマンスを行ったりするなど、学校の特色が出ていました。

後半は全中学校の3年生による合同演奏で、今年7月の九州北部豪雨に被災した人へのお見舞いや一日でも早い復興を願って、「花は咲く」の演奏と合唱が行われました。

最後に各学校の部長が、部活動の思い出がたくさん入ったメッセージを披露し、会場は感動と大きな拍手に包まれていました。



大文字

賑やかだった夏休みも終わり、親の立場からすれば「安心?」といったところですが、忘れてはいけません、9月1日は「防災の日」でもあります。

この日は暦の上で「二百十日」の厄日とされ、古来から台風が来襲する時期として知られていましたが、伊勢湾台風が襲来した翌年の昭和35年に、災害に対する心構えを養う日として「防災の日」が閣議決定されました。

半世紀以上の歴史を持つ記念日ですが、制定時に比べ、日本を取り巻く環境が大きく変化しています。

異常気象によるゲリラ豪雨や猛暑など自然の驚異が日常的になっているほか、原子力災害や日本周囲の安全保障問題など、人為的災害も危惧される時代です。

もしもの時に、慌てることがないよう、防災グッズや避難経路を確認しながら災害について考えてみてはいかがでしょうか。

(高)